



学校だより

令和元年 5月 31日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.497

「コーチング」という手法から学ぶ

副校長 横尾 康幸

「もっと勉強を頑張きなさい。」

多くの保護者の方が、一度はご自分のお子さんに、そう話された経験があるのではないのでしょうか。

その結果、お子さんは勉強を頑張るようになりましたか？

言った通りに頑張りはじめたご家庭がある一方で、口酸っぱく言った割にはあまり効果が上がらなかったというご家庭もあるのではないのでしょうか。

ある保護者の方は、「もっと勉強きなさい。」と言う代わりに、勉強を頑張ったら本人にとってこのような良い点があるという話をした上で、お子さんと一緒にできそうなところから具体的に勉強の計画を立てました。すると、その子供は、少しずつ自分から勉強を頑張りはじめようになったとのことでした。

私たち大人はこれまで様々な経験を積んできています。ですから勉強がなぜ必要なのか、その理由を知っています。また、どのような方法が自分に合っていて長続きするのかということも考えられることと思います。

しかし、子供はどうでしょうか。子供は大人ほど経験を積んでいません。そういった子供の実態を考慮して適切に働きかけていかなければ、「いくら話しても言うことを聞いてくれない」ということにつながってしまうことでしょう。

例として学習のことを書きましたが、「きまりを守ること」「粘り強く取り組むこと」「友達に優しくすること」等といったことも同様で、なぜそうしたらいいのかその子が納得し、そのために自分ができる方法を自分自身で考えられたなら、子供はきっと少しずつ変わっていくのではないかと思います。

ここまで書いてきたことは、実は「コーチング」という指導法の一手法です。

学校においても、どのようにしたら児童の心に響く指導ができるか、日々、試行錯誤しているところです。子供の目線に立って働きかけ、子供自身に考えさせながらよりよい道を探る方法は難しいですが、教育的価値の高い方法であると実感しています。子育てする際、何かの参考にしていただければと思います。

